インドネシアにおけるハラール認証制度[1)]
(Halal Certification System in Indonesia)

スコソ教授[2)]
Prof. Ir. Sukoso, M.Sc., Ph.D.
翻訳：南　家　三津子
監修：大　形　里　美

写真：シンポジウム（Zoom開催）で講演中のスコソ教授

大形

　では続いてハラール製品保証実施機構の元長官のスコソ教授に「インドネシアにおけるハラール認証制度」についてお話しいただきたいと思います。スコソ教授は、1980年代より、インドネシアにおけるハラール認証制度の普及に直接関わって来られました。そして現在に至るまで、ハラール認証制度の普及に向けて、ブラウィジャヤ大学にて極めて先進的な方法による様々なご努力を続けておられます。

　スコソ教授、本日はどうもありがとうございます。

スコソ教授

こんにちは、皆様。インドネシア語を話しますので本当に申し訳ございません。

時間があまりないので、いくつかのポイントに絞って、私の経験に限ってお話しさせていただきます。まず最初に、私が鹿児島大学に留学していた時のことです。スライド資料は、お渡ししていますがそれは使わずにお話しします

鹿児島には、ムスリム・コミュニティがありましたが、当時まず、最初に直面したのはハラールの鶏肉をどう手に入れるかという問題でした。最もシンプルなのは鶏肉ですね。魚は問題ありません。そこで日本企業が所有する鶏のと畜場で許可を得て自分たちで鶏を絞めていました。最初に取り組んだのは、そうしてハラールの鶏肉を手に入れることでした。

その後、鹿児島大学での留学を終えて、ブラウィジャヤ大学に戻ったのですが、同大学では、ハラール・トイーブ・サイエンス・センターのセンター長に就任しました。そしてキャンパス内でハラール食を提供する「ハラーラン・トイーバ・アカデミック食堂」を開設しました。その食堂は、ハラール基準に合致した体に良い食事を提供する食堂です。日本の大学も学内に食堂がありますね。

この大学での経験を元に、その後、広くインドネシア社会でもハラールの普及に努めました。ハラールについての認識をインドネシアにおいても普及させる必要があったからです。その当時、飲食物のハラール性を保証するために、「Self-Declare（自主宣言）」方式を採用しました。つまり自ら「ハラール宣言」をする方式です。お渡ししたスライド資料を、皆様に配布していただいても構いません。というわけで私がこの活動を始めたわけです。同時に特に学内のムスリム・コミュニティにおいて、ハラール制度をより完璧な形へと発展させることに力を注ぎました。飲食物がハラールであることについては、私どものサイエンス・センターによるハラール基準に従って分析を行い、対象製品（飲食物の）分析結果がハラールであることを一般に公表しました。現在、この食堂

は正式にハラール認証を得ています

その後、私のブラウィジャヤ大学での ハラール普及活動が政府に認められたという経緯もあり、（2017年に）インドネシア共和国のBPJPH（ハラール製品保証実施機構）初代長官に任命された次第です。と申しますのも、その「ハラール製品保証実施機構」から、すべての（ハラール）商品についてハラール認証が発行されなければならないからです。

ハラール認証対象製品は飲食物に限定されません。ワクチンも含まれます。実は私は長官時代にシノバック（Sinovac）というワクチンのハラール認証書にも署名しました。既に約10万に及ぶインドネシアの事業者が対象商品についてハラール認証を受けています。

確かにハラールの問題は重要です。特に日本に関して言えば、グローバル化が進む現代において、人々が国境を超えて往来したり観光旅行をしたりしますので、（訪日するムスリムたちの）消費する製品が、ハラールであることを保証することの必要性を理解していただくことが大切です。当然ながら、日本でのハラール基準の適用は、日本の事情に合ったものである必要があると考えています。というのもハラールの普及もイスラム教布教（Dakwah）の一部と考えるからです。インドネシアにおいては、すでに ハラールに関する法律や規則基準が整備されていますので、日本においては、今後も改善を継続いただきながら、まずは可能な範囲内でインドネシアの基準に従っていただくのも良いと思います。

そのようなわけで、大形里美教授が、日本におけるハラールについての共通理解を促進するために、とりわけ私どものハラール・センターと協力してくださることに心よりお礼を申し上げます。そして当然のことながら、それは可能な限り、つまり日本にある能力に応じた状況で私たちは（ハラール対応を）実践していくべきであるということで、完璧な状況になるまで改善しながら行うということを意味します。インドネシアと日本の特に貿易関係を強化するためには、とてもたくさんできることがあると思います。このハラール製品に関し

てのこの相互理解はとても重要です。

以上、日本でのハラール対応に関して、いくつかの点を指摘させていただきました。

本日のシンポジウムで議論を深めていただきたく存じます。

私も引き続き参加し、ご盛会をお祈りいたします。

Saya hanya menyampaikan beberapa poin pengalaman saja.Yang pertama ketika saya di Kagoshima menjadi mahasiswa, saya tidak akan pakai slide walaupun bahannya sudah saya berikan, memang kami punya komunitas muslim. Pada waktu itu memang kesulitan pertama adalah terkait suplai daging ayam. Yang paling sederhana ayam sebenarnya, kalau ikan ndak ada masalah. Jadi kami menyembelih ayam itu di rumah potong ayam milik perusahaan Jepang dan diijinkan. Itu yang pertama kami lakukan.

Selesai dari Kagoshima, saya kembali ke Universitas Brawijaya. Saya memimpin Halal Thoyyib Science Center di Universitas Brawijaya. Dan di situ kami mendirikan Kantin Akademik Halalan Toyyibah. Kantin itu tempat makan memang standar halal dan thoyyib. Jadi tempat makan kalau di di Jepang kan ada kantin juga kan ya.

Berangkat dari situlah saya mengembangkan mensosialisasikan tentang halal di Indonesia juga. Karena memang tuntutan pemahaman halal juga harus disosialisasikan di Indonesia, begitu. Pada saat itu saya memastikan kehalalan produk itu dengan menggunakan yang saya katakan sebagai “Self-Declare” atau pernyataan halal.

Mungkin kalau slidenya dibagikan kepada peserta silakan, karena memang saya mengawali itu disamping mendapatkan nanti penyempurnaan begitu, khususnya untuk komunitas kami di Universitas Brawijaya. Pusat studi kami membikin analisa sesuai standar dan diumumkan ke umum bahwa produk itu halal. Sekarang kantin ini sudah resmi bersertifikat halal.

Atas apa yang saya lakukan itulah merupakan bagian dari pertimbangan, sehingga saya diberi tugas memimpin pertama kali sebagai kepala Badan Penyelenggara

Jaminan Produk Halal Republik Indonesia, karena dari BPJPH itulah seluruh produk itu harus disertifikasi dikeluarkan sertifikat halalnya. Termasuk vaksin, jadi bukan hanya makanan-minuman. Vaksin yang sempat saya tandatangani sertifikat halalnya adalah vaksin sinovak. Sampai saat ini hampir kurang lebih 100.000 pelaku usaha di Indonesia sudah mendapatkan sertifikat halal.

Tentunya Halal ini penting karena menyangkut pertama terutama untuk di Jepang karena pastinya dengan kondisi global masyarakat melakukan perjalanan wisata merupakan hal yang penting untuk dipahami, dalam memberikan fasilitas kepastian terhadap produk itu halal.

Tentunya penerapan di Jepang harusnya menurut saya disesuaikan dengan keadaan, karena saya berfikir halal itu bagian dari dakwah, jadi memang kalau mengikuti yang di Indonesia tentunya karena sudah punya undang-undang ada peraturan ada standard, baik diikuti semampunya dulu, sambil terus diperbaiki. Memang Selama saya tinggal di Jepang permasalahan utama yang kami hadapi adalah sulitnya mendapatkan makanan halal.

Karena itulah maka saya terima kasih sekali bekerjasama dengan Bu Satomi terutama dengan halal center kami untuk terus mendorong pemahaman bersama tentang halal di Jepang. Dan tentunya dengan kondisi yang disesuaikan semampunya artinya kemampuan yang ada di Jepang itulah yang harus kita jalankan sambil memperbaiki sampai pada keadaan yang sempurna. Saya rasa banyak sekali terutama untuk memperkuat hubungan perdagangan Indonesia Jepang, pastinya saling pemahaman ini penting sekali terkait dengan produk halal ini.

Itulah mungkin poin-poin yang bisa saya sampaikan untuk bisa menjadikan bahan diskusi di dalam simposium hari ini. Saya terima kasih dan tetap mengikuti. Mudah-mudahan kita laksanakan dengan baik. terima kasih.

スコソ教授のプロフィール

スコソ教授は、1964年、インドネシア東ジャワのバニュワンギ出身で、東ジャワ州、マラン市の国立ブラウィジャヤ大学の水産学部を卒業後、鹿児島大学に留学され、水産学の分野で修士号と博士号を取得されている。

帰国後は、ブラウィジャヤ大学水産学部長、副学長などを経て、ブラウィジャヤ大学ハラール・トイイブ・サイエンス・センター（Halal Thoyyib Science Center, Brawijaya University）長（2010年-2017年）、「ブラウィジャヤ大学ハラール製品および食品品質研究所（Laboratory for Halal Products and Food Quality, Brawijaya University）」の責任者（2012年-2017年）、「マラン・ハラール・デスティネーション・ワーキング・グループ（the Malang Halal Destination Working Group）」の議長（2016年–現在）、the Halalan Thoyyiban Indonesia Foundation and Halal Center Indonesia（2010年–）の創設者などとしてハラール・サービス普及の分野で活発に活動されてこられた。

それらの実績が政府に認められ、2017年８月から2021年３月までインドネシア共和国ハラール製品保証実施機構の長官（Director General/Head of Halal Product Assurance Agency of Republic Indonesia/Badan Penyelenggara Jaminan Produk Halal）を務められた。その間、スイスのジュネーブにある世界貿易機関（WTO-TBT）において、ハラール製品の貿易に関わる交渉や、各国との二国間会合のインドネシア代表団の長なども務められた。

スコソ教授は、現在もブラウィジャヤ大学ハラール・トイイブ・サイエンス・センターにおいてハラール・サービスの普及活動を続けられている。

（注）

１）本原稿は、2021年10月30日（土）オンライン開催されたハラール対応に関する第３回公開シンポジウム「グローバル化時代におけるハラール産業～日本の国内向けハラール・サービスの現状とこれから～」の基調講演としてスコソ教授にお話しいただいた際のスピーチをそのまま書き起こした記録である。

（主催：北九州ムスリムフレンドリー推進プロジェクト実行委員会、後援：在日インドネシア共和国大使館、北九州観光コンベンション協会、九州・インドネシア友好協会）

This is a record of the Keynote speech by Prof.Ir.Sukoso in a Symposium “Halal industry in the age of globalization~ Current status and future of halal services for domestic use in Japan ~”, held by Kitakyushu Muslim Friendship Promotion Project Executive Committee, with nominal sponsorship from the Embassy of the Republic of Indonesia in Japan, Kitakyushu Convention & Visitors Association, and Kyushu-Indonesia Yuko Kyokai.

2）国立ブラウィジャヤ大学名誉教授、インドネシア・ハラール製品保証実施機構（BPJPH）初代長官（2017年８月―2021年３月）。同教授のプロフィールを本稿の末尾に紹介しておく。